

テレワークの普及で変わったPCの選び方 選定の基準やポイント、お客様からの最新の声を紹介

テレワークが企業の新しい働き方の1つとして定着しつつあるが、日常的に社外で業務を行うようになるに伴い、PCに求められる要件も変わってくる。社員の生産性や業務効率を向上させつつ、IT担当者の運用負担やセキュリティ確保などのさまざまな要件を満たすにはどうすればよいのか。本ホワイトペーパーでは、テレワーク時代におけるPCに関する企業のニーズ、最新動向を踏まえて選定の着眼点を整理する。



1. テレワークで変化するPCへの要件と期待

近年加速する働き方の変化に対し、PCに求められるニーズも変わってきている。本章では、テレワーク導入後に調査したアンケート結果からその変化を探っていきたい。

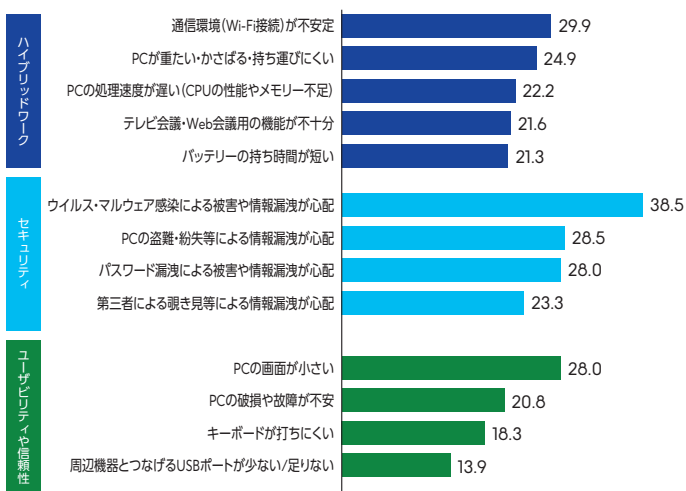
調査データからも見て取れるテレワークでの課題

テレワークが普及したことで、具体的にPCにはどのような要件が求められているのか。これを探るために、緊急事態宣言後の2021年3月に富士通では、テレワークに関するユーザー向け調査を実施した。同調査では「テレワークにおけるPC関連の課題」について、またそれが1年前と比較し重要度が高まっているかを調べた。

その結果を示したのが下表①だ。ここからもわかるように、テレワークの課題は大きく分けると、「ハイブリッドワークに求められる機能」に関する課題、「セキュリティ」の課題、「ユーザビリティ」の課題が存在する。個別の項目で見ると、「通信の安定性」「情報漏洩」「持ち運びのしやすさ」「画面のサイズ」などが目立つ。

通信の安定性についてはWeb会議の増加によることで生じたニーズである。またセキュリティについては、テレワーク環境では社内のファイアウォールなどの保護を受けられないため、よりエンドポイントとなる端末側での対策が重要になってきており、そうした背景もこのアンケート結果から見て取れる。

これらの課題に関して1年前と比較して重要度が増した項目を示したのが以下の表②である。各項目の順位という点では、上記のPC課題の順位は概ね同じ傾向だが、順位が上がったものと



表① テレワークにおけるPC関連の課題(富士通調べ)

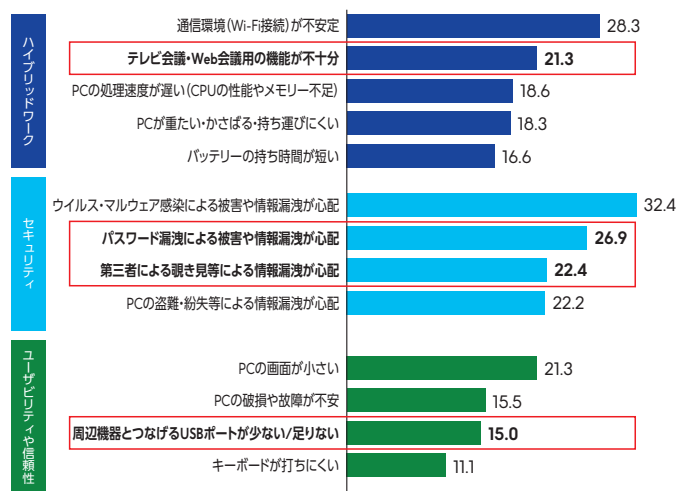
して「パスワード漏洩による被害や情報漏洩」「テレビ会議・Web会議用の機能が不十分」などがある。言い換えると、これらは運用当初に盲点になりやすい項目、または、継続的に対策が必要になる課題と言うことができるだろう。在宅勤務が始まりWeb会議ツールを中心に業務を行うようになったことでPCの機能・性能不足を痛感するケースもあれば、社外にて大事なデータを自身のローカル環境上で取り扱うことも増えてきているはずだ。これらが、上述の項目の順位の変化に関係しているだろう。

2. ハイブリッド型の働き方を支援するためのPC要件

テレワークの普及による働き方の変化を踏まえ、法人PCに求められる要件をセキュリティや使い勝手の面から解説していく。

法人向けWindows PCに必要な要件を整理

一部の業界を除いて一般的なオフィスワークで使用されることが多いPCはWindowsである。まずはそのエディションについて正しく理解しておきたい。Windowsは、Windows XP以降、主に個人向けのHomeエディションと、企業向けで必要となる機能を追加したProエディションが提供されている。法人向けPCの特長はテレワークを安全に行うための重要な機能が備わっていることだ。ポイントは大きく「ウイルス対策」「社内PCへのアクセス」「PC紛失時への対応」「Windows Updateの管理」の4つがある。以下の表で示すように、Homeにはない機能をProでカバーしている。それぞれを解説していこう。



表② 1年前と比較して重要度が高まってきているテレワークにおけるPC関連の課題(富士通調べ) 赤枠で示したものは、PCの課題の調査よりも順位が上がっている

●リモートワーク対応機能の比較

	Home	Pro
ウイルス対策 (Microsoft Defender)	○	○
社内PCへのアクセス	×	○
PC紛失時への対応	×	○
Windows Update for Businessによる 更新管理	×	○

①ウイルス対策

前章で紹介したアンケート調査の結果も示すように、多くのセキュリティ事故をもたらしているウイルス・マルウェアへの対策はしっかり行っておきたいところだ。

それに役立つのが標準搭載のアンチウイルス製品「Windows Defender」だ。同ツールは無料で利用できるにもかかわらず、サードパーティの有料アンチウイルス製品と遜色ない検知性能を誇っている。第三者機関の調査でも評価されており、安心して利用できるウイルス対策製品だ。

盲点になりやすいのが、アンチウイルスソフトではカバーできないハードウェアレベルのセキュリティだが、Windows PCでは具体的には、「TPM」と呼ばれるセキュリティチップを使って、ファームウェアレベルでセキュリティ対策を実装している。近年の高度化するサイバー攻撃は、こうしたOSよりも下の層までを狙うものがあり、そのための対策も必要とされている。

②社内PCへのアクセス

テレワークでは、会社のPCに社外からアクセスしたいというニーズも多いだろう。Windows OSでは標準機能としてリモートデスクトップを利用できるため、手元のPCやスマートフォンから社内にあるPCを遠隔操作できる。このとき、ホスト側(リモートアクセスされる側)になれる機能はProのみが対応し、Homeでは利用できない。

③PCの盗難や紛失時への対応

万が一PCが盗難・紛失にあった場合は、情報漏洩を防ぐためにPCからデータを読み取られないようにすることが必要だ。これを実現する機能として、Windows OSのProエディションでは「BitLocker」と呼ばれるストレージの暗号化機能が標準で

搭載されている。この機能があれば、もしPCからHDDやSSDを抜き取られたとしてもデータを読み取られることはない。

盗難・紛失時のもう1つの対策として、リモートからPC内のデータを消去する方法がある。そのためのツールとして、別途導入が必要だがMicrosoft 365 Endpoint ManagerなどのMDM(モバイルデバイス管理)を使用することで遠隔からのデータ消去が可能になる。

④Windows Update for Businessによる更新管理

Windows Update for Businessは、Windows PCで定期的に生じるOSアップデートの更新方法と時間を制御するものだ。PCにインストールしているソフトに影響がでないように、OSアップデートのタイミングをコントロールしたい企業は多く、Windows Update for Businessはそのためには必須の機能となる。またアップデートを制御できれば、例えば大事な作業の前にOSアップデートが始まってしまい、業務が中断してしまうということもない。

また一定の規模の企業であれば、このWindowsアップデートの管理も含めてユーザーPCの管理やユーザー認証を一括で行うために、Active Directoryを用いることも多い。WindowsのProエディションはこのActive Directoryへの参加にも、Windows Update for Businessの利用にも標準で対応している。

ProとHomeのどちらを選択するべきか迷う方もいるだろう。しかし、テレワークが常態化して社外での柔軟な働き方が求められる現在、上記の4つの観点が示すように、PCの管理性や生産性向上のためにProを選択するべきだ。

ハイブリッドワークやWeb会議などに必要な要件

セキュリティやネットワークの安定性のほかに、PC利用で特に考慮しておきたいのは、性能面や使い勝手である。

今後は、在宅勤務だけでなく、オフィス出社を組み合わせたハイブリッド型のワークスタイルが浸透することを考慮し、PC本体の大きさや重さ、持ち運びやすさ、万が一の落下や衝撃などに対する堅牢性、故障時のサポート対応の速さなどがポイントになる。ただ、モビリティを追求して画面が小さくなると作業がしにくくなってしまふ。画面サイズが13~15インチで質量1kg程度のものから、使い勝手の良いものを選ぶことが1つの目安となる。

特に直近では、ZoomやMicrosoft TeamsをはじめとするWeb会議ツールの利用が多くなってきたこともPC選定に大きく影響している。Web会議ツールを利用しながらさまざまな



フトを立ち上げ作業を行うとなると、CPU、メモリとも以前よりワンランク上のスペックが求められることが増えてきている。推奨メモリは最低8GB以上、推奨CPUはできるだけ最新のプロセッサでIntel Core i5以上を選択することが目安になるだろう。

ここで1つ気をつけるべきは、同じCore i5のCPU製品でもデスクトップPCとノートPCでは異なるものが使われているケースが多いことだ。そのため、デスクトップからモバイルPCに乗り換える場合、少し高めめのスペックを見積もりつつ、実際に業務で利用できるのかを検証機で確認することが重要だ。

またWeb会議をストレスなく行うのに欠かせない「ネットワークの安定性」についてPCに関する要件としては、IEEE

802.11ax (Wi-Fi 6)などの新しい無線LAN規格に対応していることも求められる。

3. 富士通が提案するハイブリッドワークを実現する新時代のPC

ここまでテレワークやハイブリッドワークの時代に求められるPCについてまとめてきたが、それを受けてここでは富士通が提供するPCを紹介しよう。

「LIFEBOOK U9シリーズ」と「LIFEBOOK U7シリーズ」

富士通では、これまで法人向けにさまざまなラインアップのPCを提供してきたが、その中でもテレワークに特におすすめできるのが「LIFEBOOK U9シリーズ」と「LIFEBOOK U7シリーズ」である。LIFEBOOK U9シリーズは、13.3型ワイドで質量約738g～約877gのモデルを揃え、薄型・軽量を徹底的に追求したモバイルノートPCである。通常のクラムシェルタイプのほかに、PC・タブレットと2 in 1で使えるコンバーチブルタイプの2機種がある。

LIFEBOOK U7シリーズは、13.3型ワイドから15.6型ワイドまでの画面サイズで、高いモビリティとビジネスに求められる充実

●ワークスタイルに合わせて選ぶ富士通のモバイルノート

	圧倒的な軽さのU9シリーズ		選ぶ画面サイズU7シリーズ		
	スリムコンバーチブル	ウルトラ・スリムモバイル	スリムモバイル	スリムモバイル	スリムモバイル
	LIFEBOOK U9311X/F	LIFEBOOK U9311/F	LIFEBOOK U7311/F	LIFEBOOK U7411/G	LIFEBOOK U7511/G
サイズ	13.3型ワイド	13.3型ワイド	13.3型ワイド	14.0型ワイド	15.6型ワイド
CPU	インテル®Core™i7-1185G7 インテル®Core™i5-1145G7	インテル®Core™i7-1185G7 インテル®Core™i5-1145G7 インテル®Core™i5-1135G7 インテル®Core™i3-1125G4	インテル®Core™i5-1145G7 インテル®Core™i5-1135G7 インテル®Core™i5-1125G4 インテル®Celeron® 6305	インテル®Core™i5-1145G7	インテル®Core™i5-1145G7
メインメモリ	4G～32GB	4G～32GB	4G～40GB	4G～64GB	4G～64GB
ストレージ	SSD・標準 128GB/256GB/512GB	SSD・標準 128GB/256GB/512GB	SSD・標準 128GB/256GB/512GB	SSD・標準 128GB/256GB/512GB	SSD・標準 128GB/256GB/512GB
タッチ入力	標準	タッチパネルモデルあり	タッチパネルモデルあり	タッチパネルモデルあり	タッチパネルモデルあり
バッテリー駆動時間*	約11.0時間 (標準バッテリー) 約22.5時間 (大容量バッテリー)	約11.0時間 (標準バッテリー) 約23.0時間 (大容量バッテリー/タッチパネル非対応モデル) 約16.8時間 (大容量バッテリー/タッチパネルモデル)	約12.9時間 (標準バッテリー) 約26.0時間 (大容量バッテリー)	約17.0時間 (標準バッテリー) 約23.0時間 (大容量バッテリー)	約15.0時間 (標準バッテリー) 約20.0時間 (大容量バッテリー)
質量	約877g	約738g	約0.99kg	約1.12kg	約1.32kg

外での利用が多く可搬性を重視 ←-----→ 在宅ワークが多く大画面を重視

「LIFEBOOK U9シリーズ」と「LIFEBOOK U7シリーズ」のスペック概要

*バッテリー駆動時間は、ご利用状況やカスタムメイド構成によっては記載時間と異なる場合があります

の機能を両立させたモバイルノートだ。画面サイズ、軽量化、性能などから自社に適したPCを選定できるようになっている。

生産性向上と業務効率化に貢献する 優れたユーザビリティ

高いモビリティ性能は、裏を返せば持ち運び時の衝撃にもさらされやすくなる。そこで薄型・軽量・高性能のU9シリーズとU7シリーズでは、堅牢性、信頼性、ユーザビリティにも配慮されている。

富士通製PCは、国内最大級の島根工場で一貫生産されており、目視確認や手作業などきめ細かな作業で製品の品質を支えている。持ち運びの際に安心できる頑丈設計が徹底されている。

ユーザビリティという点では、薄型筐体でありながら深いキーストローク(1.5mm)を持った使いやすいキーボードを搭載していること、多様な環境で働くことを想定し、外部接続インターフェースとしてHDMI、USB Type-A、USB Type-C、有線LANポートを標準搭載していることなどが挙げられる。

また、無線LANはIEEE 802.11ax (Wi-Fi 6)に対応しているほか、SIMを搭載した無線WAN(LTE)/無線WAN(5G)モデルも提供している。さらに、有線LANポートは開閉式で使用時以外は閉じておけるフラップ式を採用するなど、使い勝手と堅牢性・信頼性を両立させる、きめ細やかな設計が特徴だ。

ハードウェアからソフトウェアまでの セキュリティを柔軟に組み合わせて実装

さらに注目できるのは、豊富なセキュリティ機能だ。先ほど、近年のマルウェアにはアンチウイルスソフトウェアでは対処できないOSより下のハードウェア層を狙ったものがあると指摘したが、富士通独自の「Endpoint Management Chip」とセキュアBIOSの組み合わせにより、BIOSの改ざんチェック・自

●片手で簡単に開閉できるフラップ式有線LANポート



有線LANのニーズもまだまだ多くLIFEBOOKではポートを搭載

己回復機能を搭載。マルウェア対策を強化しており、米国セキュリティガイドラインであるNIST SP800-147/155/193にも準拠している。

また、タッチ式指紋センサーやセキュリティチップ(TPM 2.0)を標準搭載するほか、手のひら静脈センサー搭載も可能だ。覗き見や情報漏洩対策としては、オプションとして、簡単に着脱可能なのぞき見防止専用プライバシーフィルターや、モバイル運用時の重要データ漏洩を抑止する秘密分散ソフトウェア「Portshutter Premium Attachecase」への対応、リモートデータ消去ソリューション「CLEARSURE 3G/LTE」への対応が挙げられる。

どのようなセキュリティ機能を実装するかは選択できるため、企業のセキュリティポリシーやガイドライン、予算に合わせたセキュリティの実装が可能になっている。

[>富士通のPCが備える詳細なセキュリティ機能をWebでみる](#)

4. 企業が望む「テレワークPC」に対する本音とは

富士通では、富士通の法人向けPCダイレクト販売チャンネルとして、「購入相談窓口」および「富士通 WEB MART」を提供している。本章では、導入企業から寄せられている声をもとに、ユーザーがテレワーク時代に最適なPCとしてどのような姿を描いているのかを紹介する。

企業によって異なるテレワーク用PCの要件

U9シリーズ、U7シリーズは、法人向けのダイレクト販売サイト「富士通 WEB MART」でも取り扱っており、コロナ禍で対面での相談や販売が難しくなる中、ダイレクト販売サイトを利用する企業も増えている。

テレワーク用のPCに対するニーズは、企業規模や業種、ユーザーの職種によっても大きく異なる。大規模な企業では社員数が多いこともあり、アカウント管理やデバイス管理が煩雑になりやすく、各種法制度対応の観点からセキュリティに求める要求も高くなる。また、部門や部署ごとで一定数のユーザーが在籍するため、標準PC構成を設定しやすい面がある。

一方で、中堅中小規模の企業の場合は、多種多様なニーズに応えていくことが必要であり、PC調達も難しくなりがちだ。例えば、オフィスワークが中心の社員と工場や店舗が中心の社員では、PCに求められる要件がまったく異なる。テレワークについても、積極的に対応するというよりも、実施が困難な中で

も取引先や国などの要求に従いながら対応し、結果として自社に適したPCが何かわからず悩んでいるケースも少なくない。

サイズやスペックなどPCに要求する最新のニーズ

2021年12月現在、コロナ禍によってテレワークが普及してから、1年半以上が経過しているが、最新の顧客のニーズはどのようなものなのか。「購入相談窓口」に寄せられる声を紹介したい。

「購入相談窓口」を運営している、富士通株式会社 CCD事業統括部ダイレクト販売部 和田 耕輔氏は「持ち運びの利便性を考慮して薄型・軽量のノートPCを導入したいと考えるお客様が昨年に引き続き多く見られます。軽量モデルを検討する際の目安としては、1kgを切るかどうかを判断軸に考えている方が多く見受けられます」と最近の傾向を説明する。

もちろん、さらなる軽さを実現すれば快適度も変わってくるため、実際に触って確かめてみるのがよいだろう。また導入時の要件には上がることはないが、LIFEBOOKでは、実際に触ったあとスペック情報だけではわからないキーボードの打ちやすさを評価する声もあり、ぜひPC選定の際は着目していただきたい機能である。

また一概に軽量のPC導入といっても、在宅勤務が普及し始めた当初に比べて検討されるサイズには若干の変化が見られる。窓口寄せられる傾向から、和田氏も「13.3型のサイズは依然として人気であるものの、最近ではそれより上位のサイズである14.0型や15.6型のPCの引き合いが増えていきます」と指摘する。ノートPCでも、オフィスでは外部ディスプレイへ接続して大画面で作業できるが、働く場所が多彩になり外部ディスプレイがない

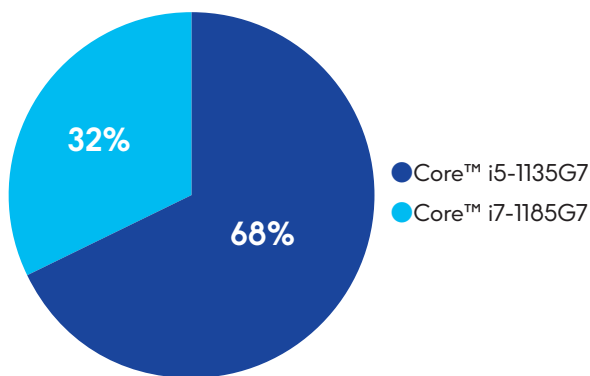


環境も想定される。そこでノートPC側である程度の大きさを確保したいというニーズが垣間見える。

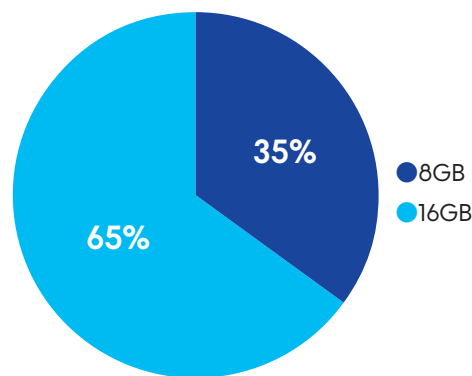
またスペック面での最近の傾向も紹介したい。アプリケーションのパフォーマンスなど業務の快適性に直結しやすいのはCPUの性能とメモリのサイズである。Windows 10からはPCに求められるスペックも上がっており、前の章で述べたように一般的なオフィスワークを行う従業員用でも、8GBのメモリ、CPUはIntel Core™ i5以上は確保しておきたいところだ。

「WEB MARTへのご相談ベースでは、LIFEBOOK U9311/FW (WEB MARTオリジナルモデル)の受注データでみると、CPUはIntel Core™ i5、メモリは16GB以上が多数を占めています。CPUの場合、例えば同じIntel Core™ i5でもデスクトップPCとノートPCでは異なるものが搭載されていることが多いため、デスクトップPC前提のスペックでノートPCのスペックを選択してしまわないよう気をつける必要があります」と和田氏は呼びかける。

LIFEBOOK U9311/FW 購入時に選択した CPU



LIFEBOOK U9311/FW 購入時に選択したメモリ
※Core i5-1135G7



CPUとメモリ選択に関する傾向

(対象機種はLIFEBOOK U9311/FW ※WEB MARTオリジナルモデル 2021年10月10日までの受注実績ベース)

現状の課題解決を起点に、 自社に必要な機能を揃えていく

多様化する働き方に対して、富士通としては「現状の課題解決を起点に、自社に必要な機能を揃えていく」というアプローチを推奨している。持ち運びやすさや使い勝手についても、常にPCを持ち運ぶケースが少ない場合もある。

『「緊急事態宣言中は100%在宅勤務、解除後は100%現場勤務」といったお客様もいますので、必ずしも軽量・薄型ではなく今まで事務所で使っていたデスクトップPCのモニターサイズとギャップを感じないよう、15.6型のノートPCを優先するという選択が考えられます。逆に、『コロナ禍も現場に出ることが多いが、現場でそこまで重い処理をする必要まではない』というお客様もいます。その場合は軽くて画面が大きくバッテリーが長持ちするノートPCを主体に選ぶ』という選択肢となります」(和田氏)

セキュリティにおいても、必ずしも最初からすべてを満たしたモデルを選択する必要はない。「例えば企業によっては1週間に1回だけサテライトオフィスで勤務する際に必要になるケースや、輪番テレワークのために在宅勤務とオフィスを行き来するケースなどがあります。そうした働き方におけるリスクの度合いから、必要な機能としてマルウェア対策とリモート消去だけを必須要件にするなどと候補を絞っていくとよいでしょう」(和田氏)

5. 富士通の法人向けダイレクト販売サイト 「富士通WEB MART」

最後に、富士通の法人向けダイレクト販売サイト「富士通WEB MART」を紹介する。

購入相談窓口で専門スタッフへの相談も可能

富士通WEB MARTでは、法人向けに、ノートPC「LIFEBOOKシリーズ」、デスクトップPC「ESPRIMOシリーズ」、タブレット

「ARROWS Tabシリーズ」、PCサーバー「PRIMERGYシリーズ」、ワークステーション「CELSIUSシリーズ」、周辺機器・ソフトウェアなどを取り扱っている。

Webサイト上でのオンライン注文と決済のほか、電話での注文も可能だ。もちろん、購入相談窓口で専門スタッフに相談しながら、PCを選定していくこともできる。

購入時の便利なサービスとしては、送料無料^{*}、翌日お届け、クレジットカード/銀行振込/代引きなどへの対応も行っている。また、安心できるサービスとしては、保守サービス、訪問セットアップサービス、リカバリメディア作成代行サービスなどを提供している。

また随時、キャンペーンも実施しているので、常にサイトをチェックしていただくとよいだろう。例えば、数量限定でのお得なわけあり品や翌日にお届け可能な短納期モデルの提供も行っている。

ダイレクト販売サイトという点、購入するモデルを事前に確定させ、できるだけ安くすぐに購入したい方向けのものと思う方もいるかもしれないが、富士通WEB MARTは、そうしたニーズだけでなく、PC選定段階から相談やアドバイスに対応していることも大きな特徴だ。特に中堅中小規模の企業が抱えるさまざまな課題にも、ユーザーに寄り添って対応している。

ビジネス環境が変化しやすい中、新しい働き方に対応するPC選定をどのように行っていけばよいか迷っている方は、ぜひ一度ご利用・ご相談いただければ幸いである。

^{*}会員登録(無料)が必要

パソコン直販サイト 富士通 WEB MART [法人]

お得なキャンペーンも実施中

> 富士通 WEB MARTはこちら

☎0120-719-242

URL : <https://direct.jp.fujitsu.com>

お問い合わせ先

【購入相談窓口】 0120-959-242

受付時間 9時～18時(土曜・日曜・祝日・当社指定の休業日を除く)

富士通株式会社 〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター